

即時行動の緊急呼びかけ：ガザの人道危機は世界的な介入を必要とする

ガザの人道危機は前例のない深刻さに達し、ホロコーストのピーク時の日次死亡率を上回り、スターリングラード包囲戦よりも大きな人口割合に影響を与えています。2025年5月2日時点で、イスラエルが2025年3月2日から課している完全封鎖により、食料、燃料、援助がすべて遮断され、200万人が壊滅的な飢饉に追い込まれています。死亡率は急上昇し、援助アクセスが回復したとしても、即時的かつ協調的で保護された介入がなければ、数十万人が依然として死亡します。イスラエルが課す条件は極めて過酷で、腐敗した食料供給が尽き、生存者が死者を埋葬する力を失う中、一部の人々は最終的に人食いに頼らざるを得なくなる可能性があります——これは緊急の行動によってのみ防げる恐ろしい結果です。我々は国連総会（UNGA）が第10緊急特別会期を再招集し、ガザの国境通過点を強制的に開放するための緊急措置を可決し、他国が空路および海路による人道援助の配送を組織し、必要に応じて軍事力による保護を最終手段として確保し、援助が困窮者に届くことを保証するよう呼びかけます。

ガザの状況：人道危機

ガザは21世紀最悪の人道危機の一つを経験しており、国連報告、人道組織、直接の証言によって記録されています： - **完全封鎖**：2025年3月2日以来、イスラエルはすべての国境通過点（ラファ、ケレム・シャロム、エレズ）を封鎖し、食料、燃料、援助の流入を阻止しています。UNRWAは3,000台のトラックを待機させ、WFPは11.6万トンの食料——200万人を44日間養うのに十分な量——を保有していますが、イスラエルはセキュリティ上の懸念を理由に、及びハマスに人質解放を要求し、入国を拒否しています（ロイター、2025年4月29日；国連ニュース、2025年4月29日）。 - **飢饉と栄養失調**：子供と妊婦の92%が重度の栄養失調に苦しんでおり、4月の子供の栄養失調症例は3月比で80%増加（Xトレンド要約）。家族は虫が湧いた小麦粉やカビたパンで生き延びており、腐っていない食料は入手できません。ある生存者は「病院にいた…期限切れの小麦粉を食べて食中毒になった」と報告（直接証言、2025年5月2日）。 - **水と医療の不足**：きれいな水がなく、汚染された水を沸かすエネルギーもなく、医療システムは崩壊しています（ロイター、2025年4月29日）。人々は3～7日で脱水症により死亡し、腐った食品の摂取による食中毒などの感染症が蔓延。 - **人食いのリスク**：まだ人食いの記録はありませんが、極端な欠乏——多くの人にとって食料なしの最初の週——は、腐った食料が尽き、生存者が死者を埋葬する力を失う中、一部の人々が最終的に生き延びるための絶望的な手段として人食いに頼る可能性があることを意味します。この恐ろしい結果は、イスラエルの封鎖によって直接引き起こされており、即時行動によって防止されなければなりません。 - **最近のエスカレーション**：2025年5月2日の夜、イスラエルのドローンが海上での援助輸送を試みたフリーダム・フロティアを攻撃し、マルタ近海で30人の乗組員を乗せた船を沈没させ、SOSを発信（報告された事件、2025年5月2日）。この攻撃は、10人の活動家が殺された2010年のマヴィ・マルマラ襲撃を彷彿とさせ（ガーディアン、2010年）、イスラエルが国際水域であってもあらゆる手段で援助を阻止する意図を示しています。

予測される死亡率：歴史的残虐行為を上回る危機

ガザの死者数は驚くべき速度で増加し、歴史上最悪のジェノサイドを超えています： - **現在の死亡率**： - **5月2日～9日**：1日あたり合計27,143人死亡（飢餓による 21,714人を含む）、5月9日までに累計190,000人死亡。 - **5月10日～16日**：1日あたり合計44,030人死亡（飢餓による 27,371人を含む）、5月16日までに累計498,212人死亡（200万人の24.9%）。 - **5月17日～25日**：1日あたり合計96,483人死亡（飢餓による 69,334人を含む）、5月25日までに累計1,366,556人死亡（人口の68.3%）。 - **5月26日～6月2日**：1日あたり合計58,593人死亡（飢餓による 40,540人を含む）、6月2日までに累計1,835,300人死亡（人口の91.8%）。 - **6月末までに**：援助が届かなければ、200万人死亡（人口の 100%）。 - **歴史的残虐行為との比較**： - **ホロコースト**：1942年のピーク日次死亡率18,692人。ガザの飢餓による死亡ピーク69,334人/日（5月17～25日）は 3.7倍高い。 - **スターリングラード包囲戦**：71万人の民間人が影響を受け、33.1%が死亡（1942～1943年）。ガザの200万人、6月2日までに 91.8%が死亡予測、死亡率は2.77倍高い。 - **食中毒の影響**：生存者が虫が湧いた小麦粉やカビたパンを食べる中、5月16日の 1,570,500人の生存者の50%（785,250人）が食中毒に罹患し、20%が死亡（157,050人）—— 5月10～25日に 1日あたり9,816人の死亡を追加し、5月17～25日までに合計 96,483人/日に押し上げる。

援助があっても多くの人が死に続ける

食料へのアクセスが回復しても、飢餓、脱水、疾病による 深刻な身体的ダメージのため、死亡はすぐには止まりません： - **再栄養症候群**：長期間の飢餓（数ヶ月間<500kcal/日、4月末から 0kcal）は、生存者が急激な食料摂取に耐えられないことを意味します。慎重な再栄養（10～20kcal/kg/日、PMC研究）なしでは、20～30%が電解質不均衡（心不全、発作）で死亡。封鎖が5月15日に終了した場合、160万人の生存者で96,000人の死亡が予想される（5月中旬推定）。 - **臓器損傷と感染症**：飢餓は心臓、腎臓、肝臓にダメージを与え、医療なしで感染症（例：食中毒、コレラ）が蔓延。封鎖後、80,240～156,425人が疾病で死亡すると推定（5月中旬/末推定）。 - **物流の遅延**：通過点が開いても、戦争で荒廃した地域で 160万人に援助を配布するには数週間かかる。5月10～16日の死亡率44,030人/日で1週間の遅延は308,210人の追加死亡を意味する。 - **封鎖後の総死亡（5月中旬シナリオ）**：即時の医療介入（例：リンゲル液 1,855万リットル）なしでは、6月中旬までに 584,450人の追加死亡が発生し、合計1,082,662人（人口の54.1%）に達する可能性がある。

即時行動の呼びかけ

この危機の規模は、緊急かつ決定的な行動を要求します。国際社会は、死亡率が飢餓による 69,334人/日（5月17日）に達するのを待つことはできません——すでに5月2日に21,714人/日の 閾値を超えています。今すぐ行動しなければなりません：

1. 国連総会第10緊急特別会期：

- **即時再招集**：国連総会は、2023年（決議ES-10/22）に行ったように、飢餓による死亡がほぼゼロだった時に 第10緊急特別会期を今すぐ再招集する必要があります。5月10日の合計44,030人/日の死亡で、危機は指数関数的に悪化しています。
- **緊急措置**：以下を強制する拘束力のある措置を可決：

- イスラエルにすべての通過点（ラファ、ケレム・シャロム、エレズ）を即時開放させ、11.6万トンの食料とUNRWAの3,000台のトラックの入国を許可。
- 国連平和維持軍を配備して援助配布を確保し、略奪を防止（デイル・アル・バラで報告、国連ニュース、2025年4月29日）。
- 援助阻止（ラシダ・タリブのX投稿による戦争犯罪）を 制裁と国際司法裁判所の執行を通じてイスラエルに責任を負わせる。
- **フロティア攻撃の調査**：2025年5月2日のイスラエル ドローンによるマルタ近海でのフリーダム・フロティア攻撃（30人の乗組員を乗せた船を沈没させた）について、国連は 即時調査を開始。国際水域での違法行為（2010年マヴィ・マルマラ襲撃の前例、ガーディアン）。

2. 空路および海路による人道援助の組織化、軍事力による保護：

- **空路および海路配送**：陸路通過点が封鎖され、海路が 攻撃されている（フリーダム・フロティア事件）中、各国は 食料、水、医療物資（例：160万人の生存者向け1,855万 リットルのリンゲル液、5月中旬推定）を届けるための 空輸と海上護送船団を組織する必要があります。
 - **空輸**：WFPとUNRWAは、2024年に空輸を行った ヨルダン（アムネスティ・インターナショナル）などの国と 調整し、食料と静脈液を届ける。
 - **海上護送船団**：国境で滞留する11.6万トンを経由して海路で 届ける多国籍フロティアを組織。
- **軍事保護（最終手段）**：イスラエルのフロティアへの ドローン攻撃は、致命的な力で援助を阻止する意図を示しています。配送を保証する唯一の方法は、軍事護衛でこれらの ミッションを保護すること：
 - **海軍護衛**：2010年のフロティアを主導したトルコや EU諸国（例：マルタ、フランス）は、護送船団を護衛する 軍艦を配備し、イスラエルの攻撃を抑止可能。
 - **防空**：戦闘機または対ドローンシステムは、イスラエルの 干渉から空輸を守り、ガザへの援助到達を確保。
 - **前例**：国連平和維持軍は過去の紛争（例：1990年代 ボスニア）で援助を護衛。志願国連合（例：カナダ、マーク・カーニーのグローバルリーダーシップ声明、Web ID 0）は 前に出る必要がある。

3. グローバル動員：

- **公衆の圧力**：期限切れの小麦粉で食中毒を起こした 生存者の証言など、直接の声を増幅し、世論の憤りを喚起。Xなどのプラットフォームで@UN、@WHO、@ICRC、@save_children をタグ付けし、5月17～25日の96,483人/日の死亡を引用。
- **外交行動**：ES-10/22を支持した国々（カナダ、オーストラリア を含む153票賛成）は、新会期と軍事保護された援助配送を 推進する主導を取るべき。
- **メディアアウトリーチ**：アルジャジーラ、ガーディアン、ロイターなどのメディアを巻き込み、6月2日までの予測 1,835,300人の死亡と封鎖継続による人食いリスクを強調。

結論

ガザの危機は世界の良心に汚点を残しています。5月10日までに 合計44,030人/日の死亡、5月17～25日までに96,483人に増加、 6月2日までに人口の91.8%が死亡すると予測され、我々はリアルタイムで展開するジェノサイドを目撃しています。イスラエルが課す条件——食料、水、医療の剥奪——は生存者を 限界に追いやり、間もなく生き延びるために人食いに頼る 可能性があります。これは起こってはなりません。国連総会は 第10緊急特別会期を再招集し、ガザの通過点を強制的に開放し、 各国は空路と海路で援助を届け、必要なら軍事力で保護すべきです。1時間の遅延は数千人の追加死亡を意味します。世界は 目を背けることはできません——残された1,570,500人の 生存者を救うため、今すぐ行動しなければなりません。